

平成 31 年度看護栄養学部健康栄養学科入学者選抜試験  
【推薦入試専門高校・総合学科推薦、社会人・学士入試】

小論文試験 出題趣旨及び解答例

**出題趣旨**

わが国の疾病（ここでは糖尿病）の現状とそれを取りまく様々な要因（加齢、生活習慣、社会環境）との関連性について考察する能力を評価する。とくに相関と因果関係について考える能力、さらには、新たな因果関係を発見するための仮説設定とその検証手段についての発想力を評価する。

**解答例 1**

図 1 より、糖尿病が強く疑われる者の割合は、男性の方が女性より多く、年齢が高くなるほど多くなっている。また、図 2 の野菜の摂取量の平均値は、男性の方が女性よりやや多い傾向にあり、男女ともに 60 未満よりも 60 歳以上の年齢の高い方が多くなっている。図 3 の運動習慣のある者の割合でも、男性の方が女性よりも多く、男性の 20-29 歳を除いて、年齢が高くなるほど多くなっている。肥満者の割合も男性の方が女性より多く、女性では年齢が高くなるほど多くなっているが、男性では 50 歳-59 歳が最も多く 60 歳から減少している。

以上より、加齢とともに多くなる傾向がみられたのは、糖尿病の強く疑われる者、野菜の摂取量の平均値、運動習慣のある者および女性での肥満者の割合であった。

このことから、糖尿病と加齢および生活習慣の関連性について考えると、年齢が高くなるほど糖尿病になりやすく、一方で、生活習慣では、野菜をたくさん食べ、運動習慣のある健康的な生活を送っていることが推測される。

しかしながら、糖尿病は生活習慣病といわれるほど、日頃の生活習慣が原因のひとつといわれている。特に、肥満や野菜の摂取量不足、運動不足は、生活習慣の乱れの要因といわれていることから、本推測については、十分な検討が必要であると考えられる。

また、本資料からだけでは、年齢以外の要因と糖尿病が強く疑われる人の割合や野菜の摂取量、運動習慣の有無、肥満者の割合との関係についてはわからない。また、糖尿病が強く疑われる人が、野菜をたくさん食べて運動しているのか、野菜をたくさん食べて運動している人が、糖尿病を強く疑われるのかも不明である。

したがって、年齢による糖尿病の増加と野菜の摂取量および、運動習慣の有無、または肥満との関係性を検証するためには、新たに糖尿病が強く疑われる人とそうでない人のそれぞれの野菜の摂取量や運動習慣の有無、肥満者の割合などを比較する資料があればよいと考える。

## 解答例 2

図 1 より、糖尿病が強く疑われる者の割合は、とくに 30 歳以降で加齢につれ増加し、男女ともに 70 歳以上で最大となる。図 2 より、1 日の野菜摂取量は、男女ともに 60 歳以上で大きく増加している。図 3 より、運動習慣のある者の割合は、男女ともに 30 歳以上で加齢とともに増加し、70 歳以上で最大となる。図 4 より、肥満者の割合は、男性では 50 歳代で、女性では 60 歳代で最大となる。

一般に、野菜摂取量の増加や運動習慣の形成は、病気の予防と健康の維持に良いとされている。このことから、図 1 の糖尿病が強く疑われる者が加齢とともに増加する原因として、図 2～図 3 にみられる野菜摂取量や運動習慣のある者の割合の増加は考えにくい。むしろ、野菜摂取量や運動習慣の増加は、加齢につれて人々が、病気にならないように気をつけている結果なのかもしれない。これを反映しているのか、男性では 50 歳代まで増加した肥満者の割合が、野菜摂取量や運動習慣のある者の割合が大きく増える 60 歳以降では減少している（図 4）。女性でも、60 歳代まで肥満者の割合が増加しているが、70 歳以上では減少している（図 4）。このように考えた場合は、糖尿病が強く疑われる者の割合が加齢につれて増加すること（図 1）の原因そのものは、図 2～図 4 の資料から説明することが難しいと思われた。

私は、糖尿病と野菜摂取量および運動習慣の関連性に興味を持った。上述のように、高齢者の野菜摂取量や運動習慣が増加したのは、本当に病気の予防のためであろうか。これを検証するために、幅広い年代を対象にした”糖尿病についてのアンケート結果”のようなものがあればよいと考えた。糖尿病という病気を知っているのか、普段からその予防を意識しているのか、心がけている生活習慣のポイントなどについてのアンケート結果から、糖尿病と加齢および生活習慣について意識面での関連性を知ることができるだろう。

795 字